

## 川上ダムの本体工事早期着工を求める意見書

平成17年10月11日

三重県伊賀市

辻 森 孝 重

淀川水系流域委員会が川上ダム建設にかかわって国交省近畿整備局の方針に対して9月下旬に意見書を集約するとの方針で、過日の名張市における木津川上流部会で表明されていたにもかかわらず、再度木津川上流部会が開催されると知り、今更何を求めようとしているのかに疑問と、時間の浪費に対する憤りを覚えます。

同委員会の趣旨に合わない意見、近畿整備局の方針に反対せんがための引き延ばしと思えて成りません。合わせてこうした運営に経費を費やすことこそ問題であると指摘し意見を表明します。

まず、貴委員会が変更を求めようとする、ダム目的4つは「洪水調整」「河川維持流量の確保」「利水」「発電」であって多目的ダムの位置づけで良いと主張します。

「洪水調整」であります。上野盆地内での洪水調整は、岩倉開削を、下流への影響、下流の危険から開削否定していることが、伊賀地域内の犠牲の根幹になっていることでもあります。又地域的偏った計画で本来の調整機能が低いとの意見がありますが、今進めている上野遊水地は40数年かかって50%の整備であります。しかも10年に一度の浸水を条件、調整機能が果たしていると理解しているのではないか、地域住民への約束は果たせていないし果たすためにはまだ何十年も必要である。これと同じく川上ダムの計画は洪水調整のセットであり、本体着手のみに取り組みが進められています。計画地の地勢、色々な条件が伊賀地域にまたとないダムに好条件であります。特に木津川本流の洪水調整に欠かすことのできないものであり、このことから、岩倉峡の開削が望めない限り伊賀地域の治水計画の背骨となるものであります。

局地的な洪水調整が困難との指摘がありますが、代替え案として色々議論してきましたが、河床掘削、堤防嵩上げ、強化は、まさに支流の服部川、柘植川の洪水調整に必要なこととなるものであります。幸いにして市町村合併により伊賀市となったことでもあり、川上ダム本体建設に合わせて市行政の河川対策浸水・洪水対策として三重県とともに新たな方針を持つことも必要である。

つぎに、河川維持流量の重要性があまり話題になっていないが木津川下流域

にあつて夏場は表面水の流水がなく魚、河川生物は死滅するような環境である環境保全を標榜する意見者にもこの流量の重要性を理解されるよう主張致したい。

さらに、ダム周辺の環境破壊、オオサンショウウオ、オオタカ等への影響もよく意見にでてきますが、川上ダム建設にむけて「ダム環境保全委員会」「川上ダムオオサンショウウオ調査保全検討委員会」「川上ダム希少猛禽類保全検討会」等々が設けられその活動が成果をあげており、今後も続けられることで十分であると主張したい。

最後に、名張市で再度部会が予定されていると聴かされているが、名張市、伊賀市は公共下水道事業が大変遅れ公有水面の汚濁が著しく下流にある高山ダムの環境、水質悪化の大きな要因となっている。せめてこの名張市で木津川上流部会を開催するのであれば、既設ダムの環境整備にも尽力し、公共下水道事業の促進、早期実現のための努力をすることを表明されたい。